令和５年１１月１８日

あきる野市議会議長　殿

会　派　名　　公明党

代表者氏名　　増崎　俊宏

会派の（ 調査研究・研修 ）報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

１　調査研究または研修実施日	令和５年１０月２４日（火）～ 令和５年１０月２６日（木）　　２泊３日
２　調査研究または研修の場所	福岡県北九州市小倉北区浅野３－８－１ 西日本総合展示場　新館
３　調査研究事項または研修名	全国市議会議長会研究フォーラム in 北九州
４　参加者氏名 （　　３　名）	増崎俊宏、大久保昌代、原田ひろこ
５　調査研究または研修の概要及び感想等	別紙のとおり

（別　紙）

【概　　要】

【１日目　基調講演】

●第１部　「躍動的でワクワクする市議会に」

・片山善博氏　大正大学教授兼地域構想研究所長

主な内容を３点にまとめると、

１点目として「地方議会をめぐる現状とこれまでの地方議会改革を検証する。」

　市民が議会に関心を寄せない現状があるので、今、地方議会が岐路に立っている。議会が決定機関であり、執行するのが行政機関である。そうした中にあって、市民が地方議会に関心を持たないことは由々しき事であり、現状、議会改革が組織風土をがらりと変えるところまではいけていない。

２点目として「日本の地方議会に欠けていることは何か。」

　自治体 DX など議会改革に一生懸命にやってきたが、住民の目線で見た時に、本来の議会に備えていなければならない要素が欠けているものがいくつかある。

①議場での公開の場での真剣な議論が欠けている。

②税の議論をほとんどしない。破綻をした時に初めて出てくる。

③住民の声が聞こえない。傍聴席にあって、発言の機会がない。

「議案の審議について」最初から出来レースだ。野球なら消化試合を見せられているようなもの。何を言ったって結論は変わらない。それをぜひ改めていただきたい。鳥取県知事を８年間したけれど、予算の修正はよくあった。孤剣にかかわるとか、そういうことじゃない。複数の目で見て、協同作業で行う。市長と対立状態になるのではない。

３点目として「現行の議会の権限を活用して、もっと積極的に取組むべきだ」

　現状では校舎がボロボロで順番待ちだ。老朽化した校舎が直せないなら、本当に必要ならば、固定資産税率や住民税を変えることを住民に理解してもらうべきだ。５年間、固定資産税の税率を１．４→１．５に変えたらいい。納税者の同意、す

なわち住民の代表である議員の皆さんが同意すればいい。住民税６％いくら上げてもいい。まず不要な予算を探して、削っていく。住民の声をどうやって取り込むか。現行の制度の応用として、執行部が提案した議案を鵜呑みにしない。行政職員は嘘をつくことはないが、上手に言う、本質をぼかすことがある。これを見抜くことが大切。

例として挙げると、中学校の統廃合をするとしたら、議員、保護者の反対が強いでしょう。教育長は以前は強かったけれど、今はそれほどでない。保護者の反対が強いのではないか？と質問すれば、当初は反対があったが、今はそうではないと答弁する。しかし、保護者から直接聞いた声は違っている。

学区の保護者や委員会に意見のある人、当事者などに直接議場に来てもらい、話を聞けばよい。日本は何でも執行部に答弁させて、間接的な答弁が多い。

公聴会の規定があるが、国会の真似をしている。国会と違って、地方自治体は市民に近いからできる。地方でやる場合、参加者の日当も交通費も払う必要はない。条例などで、市民の意見を聞く場を作り、アンケートをとり、機動的に議会がやればよいのではないか。

【１日目　パネルディスカッション】

●第２部　「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」

・コーディネーター

谷　隆徳氏（日本経済新聞編集委員）

・パネリスト

勢一　智子氏（西南学院大学法学部教授）

辻　　陽　氏（近畿大学法学部教授）

濱田　真里氏（Stand by Women 代表

女性議員のハラスメント相談センター共同代表）

田仲　常郎氏（北九州市議会議長）

【統一地方選を振り返る】　谷　隆徳氏

自民　道府県議選挙で過半数を維持。投票率は低下傾向続く。

今回の大きな特徴　女性議員の増加。市議会当選者1,457人。全体の２２％。

前回は１８．４％。定数の過半数が女性議員の市議会、町村議会もある。

依然として無投票当選も多い。市議会は２３７人（全体の３．６％）

２１市町村では定員割れ（前回は８町村）

大都市では候補者が多すぎで選ぶのが至難の業、杉並区は定数４８に対して

６９人が立候補。

【問題関心】勢一　智子氏（西南学院大学法学部教授）

人口減少社会の本格的到来が地域にもたらすもの

住民ニーズや地域課題は多様化・複雑化し、地域において合意形成が困難な

課題が増大することが見込まれるが、地域の多様な民意を集約し、広い見地

から個々の住民の利害や立場の違いを包摂する地域社会の在り方を議論する

議会の役割がより重要となる。

【多様な地方議会】辻　陽氏（近畿大学法学部教授）

人口３７０万人の市から１万人を切る市まで多様。それに合わせて、議員報酬

の額も多様で、月額２０万円を切る自治体もあり、兼業しないと生活できない。

二元代表制の理想は、議会活動に専念できる専業化の環境を整えること。

しかし、小規模自治体ほど財政力指数も小さく、一般会計に占める議会費の割

合が大きい。政務活動費の額も少ないか不支給であり、議会活動に専念すること

とには相当な困難がある。

【ハラスメントの実態から考える】濱田真　氏（Stand by Women 代表

女性議員のハラスメント相談センター共同代表）

立候補を検討中、または立候補準備中に、有権者や支援者、議員等からハラス

メントを受けた人は、全体の６１．８％、男性の５８．０％、女性の６５．５％。
有権者からのハラスメントは、街頭演説、不審な電話、住所公開によるプライバシー侵害、つきまとい・ストーカー、SNS での誹謗中傷、罵倒や叱責。
都道府県議会で、独自のハラスメント対策を実施しているのは合計１５議会。
相談体制や議会内のルール作りが重要である。

【北九州市議会の取組み】田仲常郎氏（北九州市議会議長）
議会報告会を９回実施。ショッピングモール広場で開催。YouTube にて live 配信を行った。アーカイブでも見られるようにした。アンケートも好評。
ドリームサミット（中学生議会）を開催。
平和のまちスタディーツアー（議会棟視察）を開催。
北九州市における議員立法「北九州市商店街の活性化に関する条例」「北九州市中小企業振興条例」「北九州市子ども読書活動推進条例」「北九州市官民データ活用推進基本条例」「北九州市子どもを虐待から守る条例」

【１日目の感想等】
片山氏の発言で、「教育委員会にもう少し目配りをしてほしい。義務教育の現場が疲弊している。いじめ、不登校は３０万人。先生が忙しすぎる。教員のなり手不足が深刻です。教育はブラック職場の認識が広まっている。気の毒な程忙しい。部活の担当やらされる。残業手当も出ない。一向に解決しない。学校の経営管理は教育委員会の責任。教育を増やすか、仕事を減らさなくちゃいけない。県教委に物が言えるかどうか。時間的余裕あるか、熱意があるか。自分鳥取県知事だった時には、実際に職員を増やして１クラス４０人を３０人にしてきた」との意見が、本当に現状はその通りであり、早急に対応が必要だと感じた。
片山氏は、「最後に県知事８年間した。感謝している。女性管理職比率がダントツ１位。男性育児休業所得率もトップ。育休明けに報告をしてもらったことで

職場や、議会や議会の理解が進んだ。生活者としての意識革命になりました。」とおっしゃっていたが、先駆的な素晴らしい考えであると感じた。

公聴会を活用して市民を議会に呼ぶことは、議会改革として良いのではないか。

谷隆徳氏をコーディネーターに、４人のパネラーたちのディスカッションは、議員のなり手不足の問題、小規模自治体における議員報酬額、政務活動費の額、兼業化せざるを得ない状況や、議員に対するハラスメントの現状と対策などの問題提起があり考えさせられた。こういった課題の克服が必要である。

【2 日目午前】

●課題討議「議員のなり手不足問題への取組報告」

・コーディネーター：

江藤俊昭氏（大正大学社会共生学部公共政策学科教授）

・事例報告者：

辻　弘之氏（登別市議会議長）

たぞえ　麻友氏（一般社団法人 WOMAN SHIFT 理事、目黒区議会議員）

永野　慶一郎氏（枕崎市議会議長）

はじめに、課題討議について現状認識を共有するため、統一地方選から見る地方政治の現状をコーディネーターが紹介。投票率は過去最低で、無投票当選も深刻化しており、立候補者が定員を下回る定数割れも続出した。女性議員の割合が増加し過去最高となったことは喜ばしいが、いまだ半数には程遠いのが現状。

上記の課題による影響として、①政策競争ができなくなる。②主権者意識が弱体化する。③性別や年齢に偏りが生じやすく、議会の多様性を侵害する…などが挙げられ、投票率の低下や選挙を通過しないで当選することは、民主主義の機能不全とと指摘した。

次に、議員のなり手不足問題の具体的な取組みについて、事例報告者から報告が

あった。辻氏は、議員を育てる土壌整備として地方議員養成講座を開講。地域の課題解決ができる職業の一つとして議員が存在すると紹介。たぞえ氏は、届きづらい女性の声を政治につなぎ実現することを目的に、女性議員のための研修会やネットワーク形成に尽力。永野氏は、無投票選挙を経験し、克服を目指し取り組んだ活動、議員定数や報酬に関する市民アンケートの実施などを紹介。

成果と課題については、辻氏は定数を減らすほど立候補者数も減っている現状があることを指摘。また、なり手不足の要因を報酬に誘導しているのではないかと自論を展開。これについてはコーディネーターから反論があったが、社会に存在する課題を解決する方策として議員は存在し、多様な価値観を持った議会に育てる努力をすべきと。たぞえ氏は、成果として市議会ホームページの議員プロフィールから住所を非公開にできたことや旧姓使用を紹介。さらにネットワークの重要性を指摘した。永野氏は、成果は無投票当選を今回回避できたことに尽きると。そのために取組んできた４年間でもあったと語った。議員のなり手を探している中で、選挙の負担、スタッフの確保、会社員でも議員になれる環境整備を挙げた。

【2 日目午後】

●視察：魚町銀天街でのＳＤＧｓ推進への取り組みと
北九州市の創業支援への取り組みに参加

午後は、視察研修に参加。全国で初めてアーケードができた商店街『魚町銀天街』は、２０１８年、日本で初めての「ＳＤＧｓ商店街」を宣言した。きっかけは、ＳＤＧｓコーディネーターが商店街をつなぐエコルーフの太陽光パネルに気づき、それ以外にも以前からＳＤＧｓに通じている活動が、商店街に多く存在していることに着目したこと。商店街を歩きながら、色々なＳＤＧｓに通じた活動を紹介して頂いた。

次に、国内最大級のコワーキングスペースをもつ創業支援施設『COMPASS 小倉』へ移動。指定管理者制度を活用し、民間に委託。委託先の責任者から事業概要につ

いて説明を受けた。

【２日目の感想等】

個人的には、登別市議会議長の辻氏の取組みに感銘を受けた。議員活動をしながらも養成講座を開講し、活動されていることに敬意を表したい。養成講座の参加者は必ずしも立候補を目指す人だけでなく、行政や議員の使い方やまちづくりの仕組みを学びたい人も参加しているようで、主権者教育にもつながる素晴らしい取組みだと感じた。あらゆる背景を持つ人が議員になることで、多様性が強化されることは、二元代表制である地方自治体にとっては大切なことだと思う。

女性議員が増加傾向にあることも多様性を強化する一つの要因と考えるので、今後も増加傾向が維持されることを望むが、たぞえ氏の話で「住所非公開」や「旧姓使用」については当市議会でも検討すべきと考えるので、提案してみたい。

なり手不足の問題は、一つには議員を取り巻く環境や条件の整備が挙げられると思う。報酬や身分の確定、社会保障のことなどがよく語られるが、それ以外にも議員としての働き方改革も行っていくべきと感じた。なり手を育てること。そして働き方を変えていくことに取組んでいきたいと強く感じた研修だった。

午後の視察では、魚町銀天街を歩きつつ、発電された電力が商店街の照明に活用されているエコルーフを見学した他、空き店舗を高齢者の交流拠点として活用したり、喫茶店を開きたい人のために、事前に喫茶店のチャレンジができる空間があったり、狭いスペースを提供し、自分の店を開ける空間を設けたリノベーションの取組みを視察。廃れていく商店街が多い中で、世界の潮流となっているＳＤＧｓを結び付け、商店街の活性化を図ろうとする姿勢が伺えた。

また、創業支援は２０２０年から国の支援を受ける形で、産学官金が連携してスタートアップを支援。新たな産業を創出し、市内産業の活性化を図る取組みだった。本市も創業支援に取組んでいることから、何かヒントが得られればと参加したが、あまりに規模が違いすぎていた。かねてより、本市も大学生をターゲットにした創業支援に取組んでもいいのではないかと考えていたので、その点で大いに参考にな

ったし、全体的に大いに刺激を受けた。